

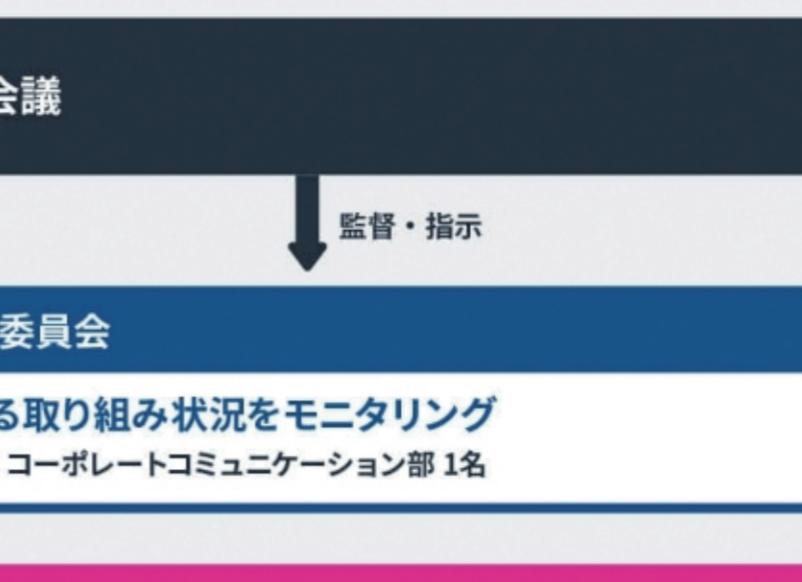
気候変動への対応

Response to Climate Change

取り組みの背景

気候変動の進行にともない、脱炭素社会への移行に向けて努力することが2016年に発効されたパリ協定で掲げられ、長期目標として平均気温の上昇を2°Cより下方に抑えることが世界の共通認識となりました。2021年には、気候に関する最新の科学的知見をまとめたIPCC第6次評価報告書が発行され、またCOP26では産業革命以前と比べた地球の平均気温の上昇を1.5°C以下に抑えることを目標としたグラスゴー気候合意が採択されました。

このような背景からミルボンでは、気候変動を中長期にわたり経営戦略や財務計画に影響を与える現実的なリスクと捉え、サステナビリティコミットメントにおいて最重要課題の1つとして位置づけました。ミルボングループのScope1・2排出量のカーボンニュートラル目標は2050年達成をめざしています。この目標を達成するため脱炭素推進を迅速に判断できる組織構築およびステークホルダーの皆さまとの協働が必要だと考えています。すべてのステークホルダーの皆さまに気候変動関連情報を開示し、対話を進めることで情報の透明性を確保するとともに、気候変動に対する取り組みおよび開示の更なるレベルアップを図り、より一層、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。



ミルボンは2022年12月に「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言に賛同し、2023年1月には国内賛同企業などによる組織「TCFDコンソーシアム」へ加盟しました。TCFD提言に基づいた情報開示を継続して行い、積極的に気候変動対応へ取り組んでいます。

ガバナンス・リスクマネジメント

ミルボンでは、サステナビリティに関する課題を重要な経営課題の1つとして捉え、その解決に向けた推進体制を整えています。具体的には、常務取締役が委員長を務める「サステナビリティ推進委員会」を毎月1回開催しています。サステナビリティ推進委員会では、気候変動に関する対応方針や取り組みに向けた課題等を検討・協議し、その内容は必要に応じて、経営会議および取締役会へ付議または報告され、取締役会はこのプロセスを定期的に監督し、対応の指示および戦略への反映を行っています。

組織のカーボンニュートラル目標の実現に向け、具体的な対策検討、グループ内への展開、取り組みの進捗管理・モニタリングを担う「TCFDワーキンググループ（以下WGと記載）」を、サステナビリティ推進委員会の下に設置。取り組みの進捗状況は、サステナビリティ推進委員会に報告しています。

組織の気候変動に関するリスクはTCFD WGが特定しています。同WGは活動状況を半期に1回サステナビリティ推進委員会を通じて経営会議および取締役会へ報告し、取締役会の監督を受けています。

※ 2022年度におけるサステナビリティ推進委員会およびTCFD WGの審議実績
：倫理方針の策定、人権方針の策定、環境方針の策定、サステナビリティコミットメント5つの最重要課題における進捗管理、シナリオ分析の実施および結果報告、ミルボングループカーボンニュートラル達成目標年度策定等

体制図



戦略

TCFD開示の初年度である今回は、ミルボングループの中核である(株)ミルボン単体を対象範囲としてシナリオ分析を実施しました。シナリオ分析では1.5°Cおよび4°Cの気温上昇を想定し、2025年時点(短期)・2030年時点(中期)・2050年時点(長期)の3つの時期にわたって気候変動によるリスクと機会を検討しました。分析にはIEA・IPCCが示したシナリオを使用しており、1.5°Cシナリオでは脱炭素社会への移行に伴う政策、規制、技術、市場、消費者意識の変化による影響を、4°Cシナリオでは急性的な変化(大雨や洪水の発生等)、慢性的な変化(平均気温の上昇や年間降水量の変化等)の双方による物理的影響を分析しています。

1986年～2005年を基準とした世界の年平均地上気温の変化



シナリオ分析結果について

今回のシナリオ分析で約40のリスクと機会が存在することが明らかになったため、これらのリスクと機会に対して(株)ミルボンへの影響の大きさを評価し、対応策を検討しました。シナリオ分析結果から、(株)ミルボンは1.5°Cと4°Cの双方のシナリオにおいて原料調達コストによる影響を大きく受け可能性があり、さらに1.5°Cシナリオでは自社操業コストによる影響も大きくなる可能性があることが分かりました。また、これらのリスクと機会については、ミルボンのサステナビリティコミットメントにて設定した「再生・循環型の生産・消費活動」、「人に優しい調達活動」の推進が、リスクの低減と機会の獲得に資するということも分かりました。その他の取り組みについても、対応策を推進してまいります。

1.5°Cシナリオ

原料調達

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	原料調達において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

サプライヤーへのカーボンプライシングの導入・拡大による調達コスト増	リスク	2030年	大	<ul style="list-style-type: none"> 国際情勢リスク、気候変動リスクにおいて、調達ルートやトレーリサビリティを調査。 原科確保のため、効率的な調達購入手法の検討。 カーボンプライシングによるサプライヤーへのコスト増を概算、商品価格への上乗せ検討、代替原料の検討。 RSPO認証バーム油の積極採用。2030年までに認証バーム油、マスバランス品を100%採用目標。
-----------------------------------	-----	-------	---	--

自社操業

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	自社操業において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

自社へのガーボンプライシングの導入・拡大による調達コスト増	リスク	2030年	小	<ul style="list-style-type: none"> WE02021,2022のNZEシナリオにおける炭素価格を用いて、Scope1・2にかかるカーボンプライシングコストを試算。 電力コスト上昇の見通しから、自家消費電力の割合を拡大。
-------------------------------	-----	-------	---	---

商品需要

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	商品需要において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

環境配慮商品の売上増	機会	2030年	中	<ul style="list-style-type: none"> 生活者ニーズに対応した、商品機能向上と環境負荷低減する商品開発。
------------	----	-------	---	--

* 自社内で定量評価を実施し、影響度を決定しています。
カーボンプライシング等で発生する明確なコストについては現在算定中です。

4°Cシナリオ

原料調達

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	原料調達において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

気候変動によるバーム油等植物由来原材料の調達コスト増	リスク	2050年	大	<ul style="list-style-type: none"> 代替バーム油の研究や処方対応を検討。 気候変動によるバーム油調達価格変動を概算。 原料や調達ルート確保の研究。
----------------------------	-----	-------	---	---

安定した原料調達のための取り組みによる調達コスト減	機会	2030年	中	<ul style="list-style-type: none"> 原料毎の気候変動による影響度を検討。 原料毎の気候変動による影響度を確認。 主要天然原料の原産国における気候変動調査や保護活動を予め想定。
---------------------------	----	-------	---	---

* 自社内で定量評価を実施し、影響度を決定しています。

カーボンプライシング等で発生する明確なコストについては現在算定中です。

自社操業

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	自社操業において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

損傷した生産設備の修復にかかるコスト増	リスク	2050年	小	<ul style="list-style-type: none"> 被災によって生産設備が損傷した場合でも、保険の適用内で修復が可能であることを確認。
---------------------	-----	-------	---	---

洪水や台風被害による配送への影響による、売上減少や在庫毀損によるコスト増	リスク	2050年	小	<ul style="list-style-type: none"> 災害時は一部物流倉庫への影響が懸念される為、代替輸送を予め想定。
--------------------------------------	-----	-------	---	--

* 自社内で定量評価を実施し、影響度を決定しています。

カーボンプライシング等で発生する明確なコストについては現在算定中です。

商品需要

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	商品需要において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

環境配慮商品の売上増	機会	2030年	中	<ul style="list-style-type: none"> 生活者ニーズに対応した、商品機能向上と環境負荷低減する商品開発。
------------	----	-------	---	--

* 自社内で定量評価を実施し、影響度を決定しています。

カーボンプライシング等で発生する明確なコストについては現在算定中です。

1.5°Cシナリオ

原料調達

リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	原料調達において想定する対策等
----------	--------	-----	-----	-----------------

気候変動によるバーム油等植物由来原材料の調達コスト増	リスク	2050年	大	- 代替バーム油の研究や処方対応を検討。 - 気候変動によるバーム油調達価格変動を概算。 - 原料や調達ルート確保の研究。
</